



新選憲法秘録

己

73  
3348  
2





門下電保  
番 3348  
卷 2



新選憲法抄録 七

一 御詔之部

御詔之部 寺島 侯爵 御書

御詔之部 寺島 侯爵 御書

御詔之部 寺島 侯爵 御書

御詔之部 寺島 侯爵 御書

御詔之部 寺島 侯爵 御書

御詔之部 寺島 侯爵 御書

御詔之部 寺島 侯爵 御書

御詔之部 寺島 侯爵 御書

御詔之部 寺島 侯爵 御書

氏遺愛之記



12



十 一宗之法義、抄し出入し、故有り、諸寺、福、法、戸、海、公、書、身  
 十一 高僧、其、現、等、故、有、此、福、書  
 十二 半、附、其、書、入、故、有、此、福、書  
 十三 重、科、人、將、執、教、未、此、任、到、故、有、此、書、身  
 十四 遠、鷹、上、の、滅、方、故、有、此、書、身  
 十五 死、前、是、修、業、を、追、教、し、其、有、何、多、故、有、此、書、身  
 十六 教、し、し、の、書、前、故、有、此、書、身  
 十七 追、教、し、故、有、此、書、身  
 十八 追、教、未、故、し、し、の、を、回、到、世、後、故、し、し、の、故、有、此、福、書  
 十九 奴、女、行、方、故、有、此、書、身  
 廿 所、有、諸、組、令、相、極、故、有、此、福、書

72 51

廿一 出、凡、其、張、凡、お、ま、中、一、方、故、有、此、書、身  
 廿二 捨、子、此、刑、禁、し、故、有、此、福、書  
 廿三 馬、車、を、引、或、其、故、躬、富、況、人、を、怒、ら、者、故、有、此、福、書  
 廿四 車、を、引、或、其、故、躬、富、況、人、を、怒、ら、者、故、有、此、福、書  
 廿五 之、を、引、或、其、故、躬、富、況、人、を、怒、ら、者、故、有、此、福、書  
 廿六 石、を、引、或、其、故、躬、富、況、人、を、怒、ら、者、故、有、此、福、書  
 廿七 骨、を、引、或、其、故、躬、富、況、人、を、怒、ら、者、故、有、此、福、書  
 廿八 筋、を、引、或、其、故、躬、富、況、人、を、怒、ら、者、故、有、此、福、書  
 廿九 奉、公、人、事、中、故、有、此、書、身  
 卅 智、禮、し、柳、藤、を、引、故、有、此、福、書  
 卅一 刑、死、病、人、を、引、故、有、此、福、書



亦二 芝石河石名建元文云事

亦三 过番石名云事

亦四 芝石石名云事

亦五 芝石石名云事

亦六 浮空石名云事 月安箱石名云事 日布德言石名云事

亦七 直海石名云事

亦八 月安石名云事

亦九 月安石名云事

亦十 月安石名云事

亦十一 月安石名云事

亦十二 新田石名云事

亦十三 芝石石名云事

亦十四 芝石石名云事

亦十五 芝石石名云事

亦十六 芝石石名云事

亦十七 芝石石名云事

亦十八 芝石石名云事

亦十九 芝石石名云事

亦二十 芝石石名云事

亦二十一 芝石石名云事

亦二十二 芝石石名云事

111



- 八 海上流るる河川の多揚河に定住する
- 九 川新流るる事
- 十 西海島名ありて事
- 十一 在りて中流を白流事
- 十二 百石の石は石を有る候事
- 十三 石有る人其石を賣る事
- 十四 石は石を有る事
- 十五 石有る人其石を賣る事
- 十六 石有る人其石を賣る事
- 十七 首領見たり事
- 十八 石有る人其石を賣る事

諸事社内所創との見たり事

- 十九 石有る人其石を賣る事
- 二十 石有る人其石を賣る事
- 二十一 石有る人其石を賣る事
- 二十二 石有る人其石を賣る事



新選憲法秘録

一 藩部之部

一 藩部之部 藩部之部

一 藩部之部 藩部之部

一 藩部之部 藩部之部

一 藩部之部 藩部之部

一 藩部之部 藩部之部

111



有る事

一 會の白濁甚だ甚だしくも、<sup>海</sup> 往くは、  
酒量多し、  
事

一 高野の青買、諸般別、  
と高野の、  
事、  
白濁、  
事

一 有る、  
事

一 有る、  
事

一 有る、  
事

一 有る、  
事

一 有る、  
事

一 有る、  
事















遠吟集傳一編書石河石村方石一り一地以て有  
録及しり

元文 乙申年

九月

右一過て五解

八  
一 似東書一依身所解書

前々々 未定書一依身所解書 未定書 未定書 未定書  
年服 依身所解書 依身所解書 依身所解書 依身所解書  
商書 依身所解書 依身所解書 依身所解書 依身所解書  
書一依身所解書 依身所解書 依身所解書 依身所解書

書一依身所解書

元文十九年

四月

九  
一 帯力依身所解書一依身所解書

一 百餘一依身所解書一依身所解書 依身所解書 依身所解書  
依身所解書 依身所解書 依身所解書 依身所解書 依身所解書  
依身所解書 依身所解書 依身所解書 依身所解書 依身所解書  
依身所解書 依身所解書 依身所解書 依身所解書 依身所解書  
依身所解書 依身所解書 依身所解書 依身所解書 依身所解書  
依身所解書 依身所解書 依身所解書 依身所解書 依身所解書

一 浦子山一依身所解書一依身所解書 依身所解書 依身所解書  
依身所解書 依身所解書 依身所解書 依身所解書 依身所解書  
依身所解書 依身所解書 依身所解書 依身所解書 依身所解書



一 寺ノ新設ニ由リテ改修佛像建立停止ノ事

聖旨百部寺ノ修費諸務有ハテ及テ其ノ修費ノ事  
事ニハ似合テテ凡俗ノ事多ク耕化ノ意以テ  
修費ノ前ノ旨ニテ所修費ノ事修テ下ルル事

享保六年

七月

十一 一 宗ノ法義ノ修ムル出入ノ修費諸寺筋筋ノ中修

書

諸寺ノ手院未修或ハ修修ノ修費諸寺筋筋ノ中修  
ホテ其ノ法修或ルル事ノ修費ノ修費ノ修費ノ修費  
ホテ其ノ修費ノ修費ノ修費ノ修費ノ修費ノ修費ノ修費

一 寺ノ修費ノ修費ノ修費ノ修費ノ修費ノ修費ノ修費  
及修費ノ修費ノ修費ノ修費ノ修費ノ修費ノ修費  
其修費ノ修費ノ修費ノ修費ノ修費ノ修費ノ修費  
其修費ノ修費ノ修費ノ修費ノ修費ノ修費ノ修費

右ノ通諸宗一統ノ修費

享保六年

十月

十一 一 寺ノ修費ノ修費ノ修費ノ修費ノ修費ノ修費ノ修費

其修費ノ修費ノ修費ノ修費ノ修費ノ修費ノ修費  
其修費ノ修費ノ修費ノ修費ノ修費ノ修費ノ修費  
其修費ノ修費ノ修費ノ修費ノ修費ノ修費ノ修費  
其修費ノ修費ノ修費ノ修費ノ修費ノ修費ノ修費



少時上意及下旨白後新親ハ白為品のりて  
糸禮法事ハも例ハ異ハ少候ハ仕付安ハ若所  
白事候ハハ奉取ハ取テ下月事  
右ノ致取テ下月事若違背ハ事ハハハ意及曲事  
下月事ハ

享保十二年

九月

十二

一 寺院ノ書入ハ候事ハ筋書

近年清寺院帳ノ其事ハ事付物佛具ハ若建  
具ノ書入又ハ書入 院文ハ以今般致信用ハ  
院致事ハハハ候事ハ白後右ノ事入或事

海ノ院文ハ以今般致信用ハハハハ南人ハ白為品人  
近カ候事ハハハ事付物佛具ハ若建  
物ハ事付物佛具ハ若建  
海ノ院文ハ以今般致信用ハハハハ南人ハ白為品人

元文三年

四月

十三

一 重科ノ人ハ俸親類ハ心付候事ハ筋書

重科ノ人ハ俸親類ハ心付候事ハ筋書  
主親類ノ人ハ心付候事ハ筋書  
少時上意及下旨白後新親ハ白為品のりて  
糸禮法事ハも例ハ異ハ少候ハ仕付安ハ若所  
白事候ハハ奉取ハ取テ下月事  
右ノ致取テ下月事若違背ハ事ハハハ意及曲事  
下月事ハ











中身家より人死名を連す乃好名を奪りておとす  
百身少東此方へ福急とあり

宗保元五年

六月

十九

一 奴女は計し候ふ所事なり

一 奴女は計し候ふ所事なり

御殿様合向しおとす候へりて致し又世に  
ゆきのまじりておとす候へり

一 所より八所年夫へ中身 致世後世より  
おとす候へりて致し候へり

享保十三年

亦

二月

一 所より御合相極し候ふ所解

所より御合相極し候ふ所解  
御合相極し候ふ所解

一 所より御合相極し候ふ所解  
御合相極し候ふ所解

御合相極し候ふ所解  
御合相極し候ふ所解

御合相極し候ふ所解  
御合相極し候ふ所解















一 三三時情更既其志居報 丁書前告其五上之如小室也交  
近之也下与一學書也

三三時情更既其志居報 丁書前告其五上之如小室也交  
近之也下与一學書也

一 卯午海入 由之情更既其志居報 丁書前告其五上之如小室也交  
近之也下与一學書也

高保中六亥年

六月

一 兩退之也 一 候月以解書

一 三退之也 一 三三時情更既其志居報 丁書前告其五上之如小室也交  
近之也下与一學書也

定保元亥年

賀正 候月 所編











昔の如く... 以て... 又...

一 水道具其非... 仕... 向... 組...  
お... 入... 約... 舟... 舟... 右...  
味... 買... 又... 舟... 舟... 舟...  
...

組... 舟... 舟... 舟... 舟...  
一 切... 舟... 舟... 舟... 舟...  
舟... 舟... 舟... 舟... 舟...  
...

一 古... 舟... 舟... 舟... 舟...  
...

舟... 舟... 舟... 舟... 舟...  
舟... 舟... 舟... 舟... 舟...  
...

組... 舟... 舟... 舟... 舟...  
...

一 右... 舟... 舟... 舟... 舟...  
...



以味了任右石所係未熟之心也任右木不堅硬且一山一  
多故及戸月少時方了也

享保八卯年

四月

奉天八年庚子秋八月廿五日

至天八年庚子前より後年を隔りし如向海八年庚子  
隔りし後年を隔りし如向海八年庚子  
了也

元禄十二年

十二月

一 娑婆 砌壁を打たぬ所解

三十一

覚

一 所くは娑婆の砌壁を打たぬ所解  
は形をくはたぬ所解  
捕り月雷の毒を打たぬ所解  
後日お前より名をいへば近頃及び月廿日所  
中解りぬ所解

享保九年

九月

一 例死病人未だ解り所解

例死病人未だ解り所解  
海島例死病人未だ解り所解

三十一



七日の内は建意を案じありしに、右の傷は、  
天をそとんがそを親類由緒し者ら病人或は死骸訂書  
以好らよのれ建意を奉り所く、  
右の後回中より知知しあり

享保十二年

十月

三石河原建礼文と事

去り後日何れ、  
解天 意死 水死 首籠  
自害 病人 逆子  
うす虫

月日

- 一 南八木川、長岸止、新子屋所限
- 一 西八木、上層人分村、板橋村限
- 一 北八木、板橋村、王子川、尾之川、道限
- 一 東八木、川村、川道、中川、道、八節、在、新田村限
- 右、建意、あり、  
右、建意、あり、  
右、建意、あり、

建意所定書と事

首見

一通、  
そのうち、  
道、















明皇不痛書を以て一文字に一場の如き見えて一君を  
病成りしもの又ハも角をさる事ある所書成りしもの成り  
と必向多きを一早速組合の中存る所成りしもの自存  
中是つて又も角を以て一場の如き見えて一君を  
病成りしもの又ハも角をさる事ある所書成りしもの成り  
一過番人政事方石以下ハ組合の中存る所成りしもの自存  
と云ふ事あり

附記 石以下組合を以て過番の如き見えて一君を  
病成りしもの又ハも角をさる事ある所書成りしもの成り

一 奉り入 石以下組合を以て過番の如き見えて一君を  
病成りしもの又ハも角をさる事ある所書成りしもの成り  
遺書事

附記 石以下組合を以て過番の如き見えて一君を  
病成りしもの又ハも角をさる事ある所書成りしもの成り

一 奉り入 石以下組合を以て過番の如き見えて一君を  
病成りしもの又ハも角をさる事ある所書成りしもの成り  
外ありし事あり

附記 石以下組合を以て過番の如き見えて一君を  
病成りしもの又ハも角をさる事ある所書成りしもの成り  
用度事ありしもの又ハも角をさる事ある所書成りしもの成り

一 過番新 石以下組合を以て過番の如き見えて一君を  
病成りしもの又ハも角をさる事ある所書成りしもの成り  
石以下組合を以て過番の如き見えて一君を  
病成りしもの又ハも角をさる事ある所書成りしもの成り

一 過番入 石以下組合を以て過番の如き見えて一君を  
病成りしもの又ハも角をさる事ある所書成りしもの成り  
石以下組合を以て過番の如き見えて一君を  
病成りしもの又ハも角をさる事ある所書成りしもの成り

一 附記 石以下組合を以て過番の如き見えて一君を  
病成りしもの又ハも角をさる事ある所書成りしもの成り  
石以下組合を以て過番の如き見えて一君を  
病成りしもの又ハも角をさる事ある所書成りしもの成り



長尺了居事

一 望中望遠の景を舟小舟東極の衣影をうりて切ふ  
又ハ門邊屋敷のありて川一帯を極く極く長  
屋にありて居るに似たりと云ふなりとありて  
ふくむ事

一 望中望遠の景を舟小舟東極の衣影をうりて切ふ  
并河邊の仕女御出立の景をうりて切ふ  
屋敷のありて居るに似たりと云ふなりとありて  
望遠の景をうりて切ふ  
又ハ門邊屋敷のありて川一帯を極く極く長  
屋にありて居るに似たりと云ふなりとありて  
ふくむ事

長尺了居事

石の鏡に映る遠景の景をうりて切ふ

西暦西暦年 四月

奉り

浮雲所隠蔽 自安箱のありて日本橋の九段の相見

高札 景文 但七月のありて

近頃の景をうりて切ふ  
またまたまたまたまたまたまたまたまたまた  
二日十日の浮雲のありて隠蔽のありて箱のありて  
持来り者右の箱に入るとりて別紙の景をうりて切ふ  
又ハ門邊屋敷のありて川一帯を極く極く長  
屋にありて居るに似たりと云ふなりとありて  
ふくむ事



平家右衛門左衛門尉平家右衛門通二日一夜知々為世業之業  
此のこし

一 平家右衛門左衛門尉平家右衛門通二日一夜知々為世業之業

一 平家右衛門左衛門尉平家右衛門通二日一夜知々為世業之業

一 平家右衛門左衛門尉平家右衛門通二日一夜知々為世業之業

一 平家右衛門左衛門尉平家右衛門通二日一夜知々為世業之業

一 平家右衛門左衛門尉平家右衛門通二日一夜知々為世業之業

一 平家右衛門左衛門尉平家右衛門通二日一夜知々為世業之業

一 平家右衛門左衛門尉平家右衛門通二日一夜知々為世業之業

一 平家右衛門左衛門尉平家右衛門通二日一夜知々為世業之業

一 平家右衛門左衛門尉平家右衛門通二日一夜知々為世業之業

一 平家右衛門左衛門尉平家右衛門通二日一夜知々為世業之業

一 平家右衛門左衛門尉平家右衛門通二日一夜知々為世業之業

一 平家右衛門左衛門尉平家右衛門通二日一夜知々為世業之業

一 平家右衛門左衛門尉平家右衛門通二日一夜知々為世業之業

一 平家右衛門左衛門尉平家右衛門通二日一夜知々為世業之業

一 平家右衛門左衛門尉平家右衛門通二日一夜知々為世業之業

奉り

一 平家右衛門左衛門尉平家右衛門通二日一夜知々為世業之業

一 平家右衛門左衛門尉平家右衛門通二日一夜知々為世業之業



















於歌あはれとをく事  
右に後つとをの得らるや

寛永月 廿三

奉新

右に元享徳七年寛永七月廿三日に徳建事

十三

寛永一月廿六日付にあらぬ海書付

一 大正清ら者不備所を新しあつて好事

一 大正清らもの左前を不建して海書事

右にあらぬものハ此處をきくと浪子に宿致して中たふ

日影きうらりのものも千科 四つ 此處をきくと中

怪あつたものもあはれものも不建事へ 是れをきくと

このをえのか 一 此のの 一 任道を不建り 其科を  
くりつてきり

寛永月

右に通世及び日付徳に不建の事あり不建の事あり

此後中今に徳にきりものもゆり 右前を不建の事あり

右前を不建

十三

寛永九月十日 和泉守 右に井原徳を不建の事あり不建の事あり  
後より徳にあらぬものも不備所を新しあつて好事

此後清宗和守清宗院に徳書 右に徳に依り 自今

法事へきりハ勿論なき 只今徳に依り 自今







寺院

依八法教又ハ端而ハ端也ハ此由緒也

解釋起起之之信信心心之之生生也也行行要要也也

一法事法事信信養養之之依依信信之之信信心心之之生生也也

一法事法事信信養養之之依依信信之之信信心心之之生生也也

一法事法事信信養養之之依依信信之之信信心心之之生生也也

一法事法事信信養養之之依依信信之之信信心心之之生生也也

一法事法事信信養養之之依依信信之之信信心心之之生生也也

一法事法事信信養養之之依依信信之之信信心心之之生生也也

一法事法事信信養養之之依依信信之之信信心心之之生生也也

附華送附華送之之信信之之信信心心之之生生也也

一法事法事信信養養之之依依信信之之信信心心之之生生也也

一法事法事信信養養之之依依信信之之信信心心之之生生也也

一法事法事信信養養之之依依信信之之信信心心之之生生也也

一法事法事信信養養之之依依信信之之信信心心之之生生也也

一法事法事信信養養之之依依信信之之信信心心之之生生也也

一法事法事信信養養之之依依信信之之信信心心之之生生也也

一法事法事信信養養之之依依信信之之信信心心之之生生也也

一法事法事信信養養之之依依信信之之信信心心之之生生也也











一何也何款何村者之往何村百姓村乃猪也之候  
身乃出入此病中<sup>レ</sup>之身乃居之方<sup>レ</sup>返昔昔乃何身乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
中乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
悔<sup>レ</sup>乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
私<sup>レ</sup>乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
私乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

中乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
坊乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

年月日

何也何款何村

招人

乃乃乃

何也何款何村

日

乃乃乃

何也何款

乃乃乃



























一 中野玉芳堂那神ノ事村ノ事門毛与成成恒在  
 願入坊之旨海依鬼母川ノ及入水日放大道東村地  
 光ノ事ノ指海親者事控傳ノ成事社事ノ一戸回  
 因傳者ノ事ノ成事村ノ事ノ福成知事成南事成  
 知事ノ事ノ事ノ控傳ノ成事村法事坊成恒  
 立今ノ日書事ノ事ノ願入坊ノ成事ノ成事同成  
 上ノ事ノ事ノ事ノ成事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事  
 成事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事  
 代ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事  
 控傳ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事

一 海上流着物流着物ノ事揚成恒在事  
 一 流着物ノ事 事ノ事 事ノ事ノ事ノ事  
 一 流着物ノ事 事ノ事 事ノ事ノ事ノ事  
 右ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事  
 事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事  
 事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事  
 事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事  
 事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事



一 川原流石抄

一 湯原抄

一 湯原抄

右文云同抄

一 西條馬出抄

一 西條馬出抄

一 西條馬出抄

一 西條馬出抄

一 西條馬出抄

一 西條馬出抄

一 西條馬出抄

一 西條馬出抄

一 西條馬出抄

一 西條馬出抄

一 西條馬出抄

一 西條馬出抄

一 西條馬出抄

一 西條馬出抄

一 西條馬出抄

一 西條馬出抄

一 西條馬出抄

一 西條馬出抄

一 西條馬出抄

一 西條馬出抄

一 西條馬出抄

一 西條馬出抄

一 西條馬出抄

一 西條馬出抄

一 西條馬出抄

一 西條馬出抄

一 西條馬出抄



中村の代々も此書に記す物古徳書給事以味書物其  
流亦甚難辨其有之也一古利階里夜之考亦其  
く流並及中より大なる其坐り根句は

一 書名に味書給事とありて此の字亦古徳書に記す  
味書給事とありて此の字亦古徳書に記す  
以用の趣く此の書名も其由大辨入手致す  
一 馬込安房の代々も此の字亦古徳書に記す  
何れに記す此の字も其由大辨入手致す

一 在方山古徳書に記す事

一 在方山古徳書に記す事  
進出代官に於て此の書名も其由大辨入手致す  
之と此の書名も其由大辨入手致す  
代官初め此の書名も其由大辨入手致す

一 右の書名に記す事  
張少何れ此の書名も其由大辨入手致す  
其人馬に記す事  
味書給事とありて

元禄十五年六月万石の運搬者亦此書に記す事











志所めはるく加をえりて進退をへ

一 世帯ハ科入々程類大をゆあへ一 右科書ハ濃佳色  
山程類方々を極々節ハ目程は未だ味をぬりて  
あま程程の減へ一 されをとりて人々目程の極々  
ハ能くわらん一 呂のを種々をりて行勢ハ極前  
ゆりては思方ハ陣成りて入へ

一 右有入見りて陣鳴氣あ交り

一 右有入見りて陣鳴氣あ交りハ其極々目  
氣は身あつて味をぬりて味ハ鳴氣をあらはし又ハ丁子  
油を申さして物へ一 是又右極極々味ハ鳴氣を不

鳴氣

一 道中節制との意死々々の内産々々

一 例々の又ハ意死々々の内産々々ハ遠見ハ懐中  
衣被持及具ホ年輪其和怪を候々々味味味  
例の場高字近々々々名場ハ其及中々々陣成り  
去はる代及屋敷ハ陣別は進々々々々々々々々々  
進書陣成りてハ生るる見分あはれ々々の於其場  
高細々々進州ハ徳高場ハ其々々々々々々々々々  
別々々々入口々々名問高々味味味味味味味味  
者味味味味味味味味味味味味味味味味味味  
味味味味味味味味味味味味味味味味味味



七宿の夜進と一日の事(相山代官の石物持見と三宿  
進の教書をお徳の子を及中奉り)と毎夜山宿定より  
き直但及中抄の事ある物(安者の三日の事)と其  
場ありと云々(云々)

一 首鑑見方の侍の事

一 首鑑を鑑るお徳の子の何方か鑑る見方の侍の  
あり法(若死の男)好くありし(若死の男)と云々  
事あり(云々)

一 首鑑を鑑るお徳の子の何方か鑑る見方の侍の  
あり法(若死の男)好くありし(若死の男)と云々  
事あり(云々)

一 首鑑を鑑るお徳の子の何方か鑑る見方の侍の  
あり法(若死の男)好くありし(若死の男)と云々  
事あり(云々)

十七

一 首鑑を鑑るお徳の子の何方か鑑る見方の侍の  
あり法(若死の男)好くありし(若死の男)と云々  
事あり(云々)



















宝曆七年八月

一 負人見分白得事

一 負人底政事 想人入りて中を人守る候

一 三指倍は指を守る事

一 赤色は長しに白を添ふ事

一 麻の中ハあるは是れは麻口にてせり

一 白くは是れは中ハある事

一 指麻ハ指を守る事一倍切り守る事

一 白くは是れは又切り守る事

一 切色は是れは白くは是れは切り守る事

一 麻は是れは何程切り守る事

一 負人見分白得事

一 負人底政事 想人入りて中を人守る候

一 三指倍は指を守る事

一 赤色は長しに白を添ふ事

一 麻の中ハあるは是れは麻口にてせり

一 白くは是れは中ハある事

一 指麻ハ指を守る事一倍切り守る事

一 白くは是れは又切り守る事

一 切色は是れは白くは是れは切り守る事

一 麻は是れは何程切り守る事



一 負人見分白得事 想人入りて中を人守る候











一 瘡瘍 瘡前より肉腐成り長く引下りて穢りて深きものあり  
骨に如くあせりては骨節を多如く傷むる瘡ありて死  
し瘡は瘡前より深きものありて死を何とてあせりて  
瘡高きものありて瘡前より肉腐成りて深きものあり  
九見及多如く何程伴つては死を何とてあせりて  
大事なる瘡は瘡前より肉腐成りて深きものありて大事  
なり

一 瘡の眉 瘡の眉を切りては瘡長き事有る世に  
引下りては瘡前より肉腐成りて深きものありて  
その瘡は瘡前より肉腐成りて深きものありて

一 瘡の瘡 瘡の瘡を切りては瘡長き事有る世に  
引下りては瘡前より肉腐成りて深きものありて  
その瘡は瘡前より肉腐成りて深きものありて

一 瘡の瘡 瘡の瘡を切りては瘡長き事有る世に  
引下りては瘡前より肉腐成りて深きものありて  
その瘡は瘡前より肉腐成りて深きものありて



























*[Faint, illegible handwriting, likely bleed-through from the reverse side of the page.]*



